



旧玉梨小学校の
未来のために

金山町教育委員会

旧玉梨小学校の 未来のために

	はじめに	2
	令和5年度サポート事業概要	3
1	—— 過去を知る	4
	金山町内の小学校	6
	玉梨小学校のあゆみ	8
	地域のなかの学校	10
2	—— 近隣町村の事例に学ぶ	12
	西会津 [西会津国際芸術村]	14
	昭和村 [からむし工芸博物館]	16
	昭和村 [交流・観光拠点施設 喰丸小]	18
	只見町 [ただみ・モノとくらしのミュージアム]	20
	只見町 [ふるさと館田子倉]	21
3	—— 未来を考える	22
	第1回 - 旧玉梨小学校に対する参加者の想いを聞く	24
	第2回 - 教育委員会による整備・活用方針案を検討する	26
	第3回 - 改修・活用案のさらなる具体化を目指す	30
	検討会まとめ	32
4	—— 〈提言〉旧玉梨小学校および周辺地域の整備・活用方針	34
	整備・活用の概要と目的	36
	旧玉梨小学校整備・活用イメージ	38
	金山町エコ・ミュージアム活動イメージ	40
	今後の取り組み	42
5	—— 資料 [ツアーアンケート結果]	44

この冊子は、旧玉梨小学校の未来を考えるために編まれた報告書です。

1938（昭和13）年に落成した旧玉梨小学校校舎は、1977（昭和52）年の小学校統合後も、自然教育村会館としての利用をはじめ、多様な地域活動の場として活用されてきました。しかしながら、施設の老朽化と町を取り巻く状況の変化により、近年の旧玉梨小学校は、活用機会が減少しています。

こうした現状に対して2020（令和2）年度の金山町地域振興検討会は、旧玉梨小学校については「町の歴史や文化を次世代に継承するための交流施設として活用」するのが望ましいと結論付けました。また、町はこの要望に応えるため、旧玉梨小学校の改修に向けて、準備を進めてきました。しかし、令和5年町議会3月定例会において、施設の具体的な活用方法とそれにふさわしい改修案の検討が不足しているという指摘がなされ、2023（令和5）年度の改修工事着工は見送られました。

そこで2023（令和5）年度の金山町教育委員会は、近隣町村での旧校舎活用事例や文化施設に学んで旧玉梨小学校の今後を考える見学ツアーと住民検討会を開催し、旧玉梨小学校の未来を住民とともに考えるための取り組みを行いました。本報告書には、このツアーおよび検討会の内容、そしてツアー・検討会を踏まえて町がまとめた提言が掲載されています。旧玉梨小学校活用の検討プロセスを記録・公開し、今後の議論と実践をさらに良いものにすることが、本報告書のねらいです。

報告書の構成は以下のとおりです。第1章「過去を知る」では、全ての議論の前提として、旧玉梨小学校と金山町における学校のあゆみを振り返ります。第2章「近隣町村の事例に学ぶ」では、今年度実施したツアーの訪問先である、近隣町村の取り組みを紹介します。地域的に類似点の多い近隣町村における旧校舎の活用事業や、文化施設の取り組みは、金山町独自の取り組みを考えるうえで、参考にすべきものです。第3章「未来を考える」では、ツアーとあわせて実施した住民検討会の概要をまとめています。参加者同士で活発な意見が交わされた検討会は、旧玉梨小学校を巡る今後の議論の土台となるものです。続く第4章では、ツアー・検討会の内容を踏まえて、町からの提言を紹介します。最終章となる第5章には、資料としてツアー・検討会に寄せられたアンケートの結果を掲載しました。

町では、本報告書を土台として、旧玉梨小学校の未来に向けた議論をさらに深め、効果的な改修整備・活用を実現したいと考えています。本報告書に対するご意見・ご感想がございましたら、ぜひ教育委員会までお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

2023（令和5）年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）概要

旧玉梨小学校の未来を考えるツアー・検討会 実施概要

回	開催日	ツアー見学施設	ツアー参加人数	検討会参加人数
第1回	2023年10月9日（月・祝）	西会津国際芸術村	13人	22人
第2回	2023年12月2日（土）	交流・観光拠点施設喰丸小からむし工芸博物館	9人	13人
第3回	2023年12月16日（土）	ただみ・モノとくらしのミュージアム ふるさと田子倉館	11人	16人
延べ参加人数			33人	51人

ツアー・検討会ファシリテーター：榎本千賀子（新潟大学）・菅家悠斗

小学生向け弥平民具活用 ワークショップ（打ち豆づくり）

弥平民具を用いて豆類の生産と利用の概要を学んだ後に、こどもたちが伝統的保存食である打ち豆づくりに挑戦しました。

回	開催日	開催場所	講師	参加人数
第1回	2024年2月13日（火）	金山町開発センター （金小ゆうがたクラブ）	若林照枝	9人
第2回	2024年2月20日（火）	横田公民館	須佐ミヨコ	7人
延べ参加人数				16人

弥平民具台帳整理 ワークショップ

歴史学・民俗学を専門とする講師指導のもとに、弥平民具の記録写真撮影と、資料調査カードの更新作業に挑戦しました。

開催日	開催場所	講師	参加人数
2024年2月23日（金・祝）	旧玉梨小学校	阿部浩一（福島大学）	9人
2024年2月24日（土）		大里正樹（福島県立博物館）	4人
延べ参加人数			13人

1

過去を知る

場所の過去やそこにまつわる記憶は、その場所の未来を考えるための貴重な手がかりです。この章では、旧玉梨小学校の未来を考える第一歩として、旧玉梨小学校と金山町内の学校が迎った過去を振り返ります。

かつての学校は、子どもたちの学習の場であるだけでなく、幅広い世代の人々が集う、地域の中心地でありました。そうした過去の学校のあり方は、旧玉梨小学校という場に秘められた、幅広い可能性をわたしたちに教えてくれます。



金山町内の小学校

旧玉梨小学校は、金山町内に残る唯一の木造小学校校舎です。

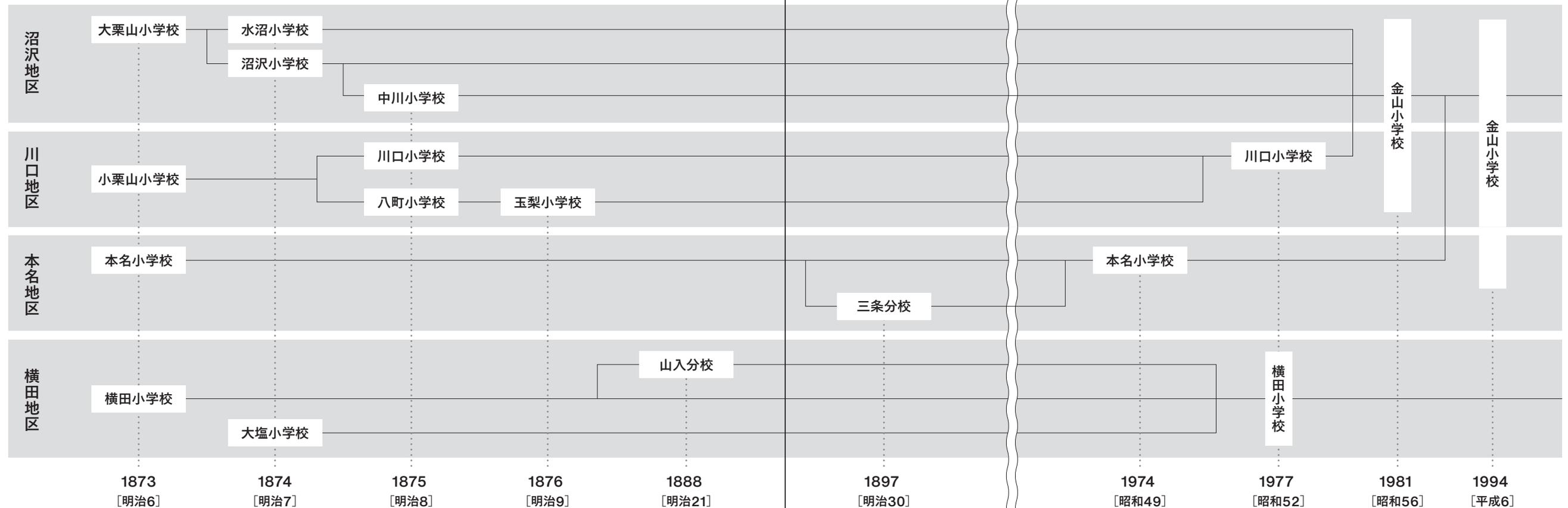
約150年前の1852(明治5年)に日本最初の近代的学校制度である学制が公布されると、現在の金山町にあたる地域でも、学校の整備がはじまります。当初4校の小学校からスタートした町内の学校は、国の義務教育制度の拡充に加えて、町内人口の増加と冬季の積雪をはじめとする地域特有の事情に対応するため増設が続きました。

しかし、滝発電所完成により町内における発電所建設が一段落した1961(昭和36)年頃から、金山町の人口は急激に減少をはじめ、それに伴って児童生徒数も減少します。そして、この状況に

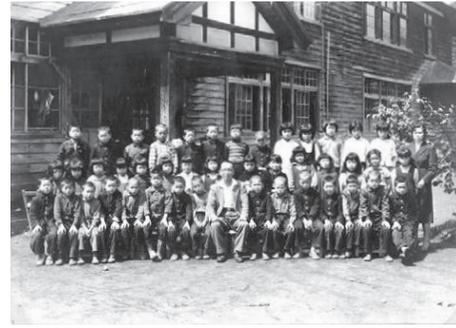
対応するため、町は1970年代半ば以降より学校の統合に取り組みます。その結果、2023(令和5)年現在の町内には、小学校2校、中学校1校、福島県立川口高等学校の4校のみが残されています。そして現在、町立小学校2校についても、2025(令和7)年4月の統合に向けて準備が進められています。

このような現状のもとで、旧玉梨小学校は、本校・常設分校を合わせて10校もの小学校が存在していたかつての町の賑わいを、木造校舎のぬくもりとともに伝えていきます。その建物は、町の歴史を伝える身近な文化遺産のひとつと言えるでしょう。

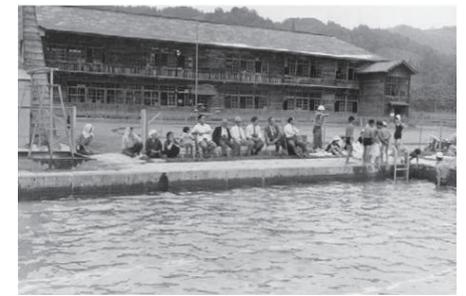
金山町内 主な小学校・分校の開校・統合のあゆみ



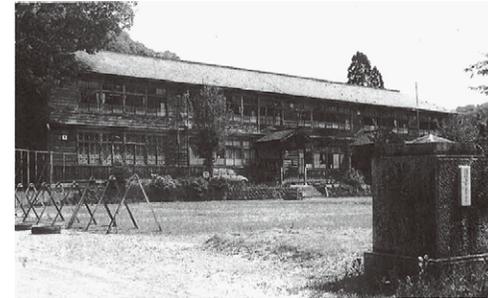
・表に記載したもののほか、各地に冬季のみ開校する季節分校が存在していた。
 ・三条分校は、1897(明治30)年に季節分校として開校。1949(昭和24)年より常設校となった。



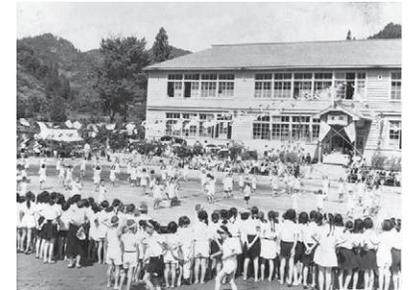
1



2



3



4

町内各地区の小学校木造校舎

1. 大塩小学校集合写真/1960(昭和35)年
2. 中川小学校 プール/1981(昭和56)年
3. 本名小学校(『平成5年度学校要覧』より)/1993(平成5)年
4. 川口小学校 運動会/1955-56年頃

参考: 高橋富雄監修(1976)『金山町史 下巻』金山町、本名小学校創立120周年記念事業実行委員会(1993)『大沼郡金山町立本名小学校 創立百二十周年記念誌』、金山町(2021)『金山町町政要覧2021 資料編』

玉梨小学校のあゆみ



玉梨小学校 教室／1968(昭和43)年

玉梨小学校は、約100年にわたり、玉梨・八町地区の学び舎として、また、様々な文化活動の中心地として、地域の生活を支えてきました。現在の校舎は、1938(昭和13)年に落成し、その後1958(昭和33)年に増改築された建物で、町内に残る昭和前期建築の木造校舎としては唯一のもので、この校舎は、1977(昭和52)年の小学校統合後も地元玉梨の人々の様々な地域活動の場

あり続け、また1986(昭和61)年からは町の宿泊研修施設・自然教育村会館として活用されてきました。

しかしながら、施設の老朽化と町を取り巻く状況の変化により、近年の利用機会は減少し、建物2階に設置された民具展示室についても、特別の機会を除いて一般に公開できない状況が続いています。



1



2



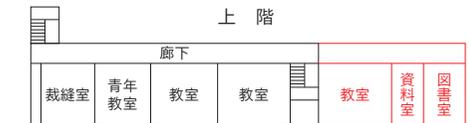
3



4

思い出の玉梨小学校

1. 増築前の玉梨小学校／1940年代
校舎右側が1階建てとなっている。
2. 統合前の玉梨小学校校舎／1972(昭和47)年
3. 玉梨小学校 旧講堂／1950年代
4. 玉梨小学校 講堂／1963(昭和38)年
5. 1938(昭和13)年建築時および1958(昭和33)年増改築時
校舎図面(赤字部分が1958(昭和33)年増改築部分)



5

玉梨小学校沿革

1873(明治6)年	玉梨小学校の源流となる小栗山小学校創立
1875(明治8)年	小栗山小学校を分割し、川口・八町小学校とする
1876(明治9)年	八町小学校を玉梨小学校と改称、玉梨に移転する
1938(昭和13)年	現在の校舎が一部完成
1958(昭和33)年	増改築により、現在の校舎の姿となる
1977(昭和52)年	児童数減少により、玉梨小学校を川口小学校に統合
1986(昭和61)年	自然教育村会館として利用開始 玉梨・栗城弥平氏収集の民具を展示する弥平民具資料室開室

地域のなかの学校



玉梨小学校を拠点に活動した玉梨八町青年団／1950年代

旧玉梨小学校をはじめとする金山町内の学校は、子どもたちの学習と成長の場であるだけでなく、地域の中心地として重要な役割を担ってきました。

現在でも、小中高校の運動会や文化祭は、多くの町民に校内行事を超えた地域の行事として受け止められています。さらに、かつての町内では、しばしば学校の敷地を利用して盆踊りや演芸会や球技大会などの地区行事が開催されていました。また、義務教育を終えた若者たちの社会教育と同世代間の交流の場であった青年団や、高齢者のための敬老会、地域の文化活動クラブなど、地域コミュニティに活

気を与えた様々な集団に活動拠点を提供したのも、放課後の学校でした。

地域を支える重要な拠点であった学校は、地域の人々が支える場でもありました。各学校の沿革誌には、地域の人々による寄付や援助の記録が、数多く残されています。

旧玉梨小学校の未来を考えることは、このような地域と学校の結びつきを、学校施設が教育の場としての役割を終えた後で、いかに更新・維持していくかを考えることでもあるのです。



1



2



3



4



5

地区の文化センターとしての学校

- 1.川口小学校講堂で開かれた青年団主催の敬老会／1941(昭和16)年
芝居や音楽で高齢者を楽しませる青年団の演芸会は、戦後まで続いた楽しみのひとつであった。
- 2.川口小学校家庭工芸品・農産物展示会／1956(昭和31)年
展示会の売上金は小学校のピアノ購入に充てたという。
- 3.横田小学校を拠点にした横田4Hクラブ(農業青年クラブ)／1957(昭和32)年
各地区の学校では、青年団のほか様々な文化クラブが活動していた。横田4Hクラブは、農業に従事する青年たちの集まりを元に作られた地元青年交流会で、演劇・合唱などの活動を多く行っていた。
- 4.川口中学校あるいは小学校で行われた相撲巡業／1955(昭和30)年
学校は、地域外から持ち込まれる文化や娯楽の紹介の場でもあった。
- 5.玉梨小学校校庭で行われた盆踊り／1977(昭和52)年

弥平民具と玉梨小学校

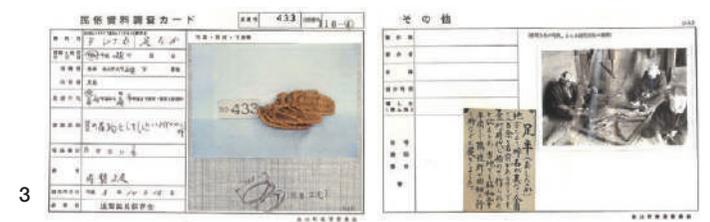
弥平民具は、玉梨地区の住民であった栗城弥平さんが、昭和20年代後半より玉梨地区を中心に金山町内・昭和村で収集した、約1000点の民具からなるコレクションです。個人コレクションからスタートした弥平民具の町による保存には、弥平さんの活動に感銘を受けた玉梨住民が結成した、玉梨民具保存会による活動が大きな貢献を果たしました。弥平民具には、漆蠟燭作り道具や木羽屋道具など、全国的

みても貴重な資料も含まれています。

旧玉梨小学校は、民具を整理し目録を作成する玉梨民具保存会の活動の拠点として、民具の展示場所として、重要な役割を果たしてきました。玉梨住民の手により収集された民具コレクションを、地元玉梨で活かそうとした玉梨民具保存会の活動は、町内の文化財の今後を考えるうえでも示唆に富んでいます。



1



3



2

- 1.弥平民具資料室／2023(令和5)年
- 2.玉梨民具保存会によるバツタリの再現／1980(昭和55)年
水力を動力に利用した杵つきの道具、バツタリの再現。
- 3.民俗資料調査カード／1991(平成3)年／玉梨民具保存会
弥平民具の目録は、只見町の民具整理を参考に、栗城弥平が中心となって作成したものである。写真撮影は玉梨地区住民・角田勝之助が担当し、民具使用場面の再現写真のモデルとなったのは、明治・大正生まれの玉梨地区の高齢者らであった。

近隣町村の事例に学ぶ

2

金山町の近隣町村には、統廃合後の学校を始めとする地域の既存施設を活かした先進的な取り組みや、地域の文化遺産を守り・伝える優れた活動が数多く存在しています。これら先行する取り組みは、これから旧玉梨小学校の未来を考えようとするわたしたちにとっては、教師とも言えるような存在です。2023年度の金山町教育委員会では、このような近隣町村の事例に学びながら旧玉梨小学校の整備・活用を議論するために、西会津町・昭和村・只見町の関連施設を訪問するツアーを企画・開催しました。本章では、今後の議論の土台として、このツアーの概要と、見学者の感想を紹介します。



西会津国際芸術村

所在地 西会津町新郷笹川上の原道上5752
開館時間 10:00~17:00
休館日 月・火曜日(祝祭日除く)
入館料 無料
電話 0241-47-3200



西会津国際芸術村は、2002年に廃校となった旧新郷中学校の校舎を活用する施設です。

現在の旧新郷中学校校舎は、美術の公募展や創作教室、国内外の芸術家による滞在制作（アーティスト・イン・レジデンス）などの芸術活動や、地域文化を学ぶスクールの教室、地域の資源を活かした事業の開発、移住相談の窓口など、西会津の「未来ある過疎」をつくるための様々な活動の拠点として利用されています。



キッチンを備えた「まぼろしレストラン」の部屋で矢部さんにお話を聞きました。

人が集まる施設には「人間」「空間」「時間」の3要素が大切です。金山町の旧玉梨小学校には、校舎という「空間」とそこに積み重ねられてきた「時間」はすでに備わっています。これに加えて、**これらを活かす「人間」が居れば、この施設はもっと面白くなるはず**です。特に大事なものは、「**外の視点を持っている人**」と「**ずっとその土地に住んでいる人**」の双方を大切にすることです。

今ある旧新郷中学校の「空間」を活かすために、西会津国際芸術村では、**もとの建物の質感を大切に**しています。建物を修繕するときも、**色や質感を古い方に合わせる**など、雰囲気が変わらないように気をつけています。旧玉梨小学校に手を入れるときにも、参考にしてみてください。



施設1階の「木工房」では、中学校の実習で使われていた工作道具を使って、作品づくりなどの活動ができます。訪問時の「木工房」には、こどもたちの描いた絵が残されていました。



施設2階の5つの教室は、展示室として活用されています。

参加者の感想

矢部さんの活躍がすごい。

運営・継続させる「人」が重要だと感じた。

新しいものと古いものが融合した、おしゃれで落ち着く空間が素敵だった。

西会津国際芸術村ディレクター
矢部佳宏さんのお話

からむし工芸博物館

所在地 昭和村佐倉字上ノ原1(道の駅からむし織の里しょうわ内)
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日 4月~11月 無休/12月~翌3月 不定休
入館料 高校生以上300円(団体20名以上250円/人)
小中学生150円(団体20名以上100円/人)
JAF会員割引あり
電話 0241-58-1677



からむし工芸博物館は、2011(平成23)年に国重要有形民俗文化財に指定された「会津のからむし生産用具及び製品384点」を中心に、からむしにかかわる歴史資料や生産用品を展示する博物館です。上布の原材料としては本州で唯一のからむし生産地であり、国の伝統的工芸品「奥会津昭和からむし織」を伝える昭和村を支える、重要な拠点施設です。

松尾悠亮さんのお話

からむし工芸博物館学芸員

「からむし生産用具及び製品」が重要有形文化財の指定を受けるまでには、住民による「大芦民俗資料保存会」の活動も大きな役割を果たしました。図録や、博物館刊行物の制作には、からむし織体験生制度の卒業生たちも関わっています。

博物館では、村内の蔵を解体する際などに出てきた用具を譲り受けることもあります。伝統的なからむし織の伝承活動に使う地機などは、こうした活動を通じて確保しています。



学芸員の松尾悠亮さんによる解説



機織り機2種 高機(左)と地機(右)

参加者の感想

金山町の弥平民具を考える上でも参考になる。

からむしは、行政による主導と地元住民の理解と協力によって、継承・保存されてきたのだと思った。

交流・観光拠点施設 喰丸小

所在地 昭和村喰丸字宮前1374
開館時間 9:00～17:00 ※校庭・駐車場には時間外・休館日でも入れます。
休館日 年末年始(12月29日～1月3日)
※開館日でも職員不在のため臨時休館になる場合があります。
入館料 無料
問い合わせ先 昭和村役場 産業建設課 観光交流係
0241-57-2124(喰丸小内)



校舎本館隣の新校舎は、カフェとして活用されています。

1980(昭和55)年閉校の旧喰丸小学校を活用した施設です。一時は取り壊しが検討された校舎は、署名やクラウドファンディングを経て、2018(平成30)年にリニューアルオープンしました。施設内には、産業建設課観光交流係の事務室と観光・移住の相談窓口がおかれています。近年は交流の場としての利用が活発化しています。

担当者のお話

現在の喰丸小の交流活動を盛り上げているのは、手作りの作品や食品を販売するチャレンジショップ「よいやれ屋」です。20名程の村民が出店登録をして活動しています。出店者の村民との出会いの楽しさに惹かれて、喰丸小の常連となった方もいらっしゃいます。

春・秋に観光客が集中しがちで、駐車場とトイレが不足します。イチョウの紅葉が見頃を迎えた2023年11月の3連休には、2,500名の来場がありました。反対に冬は利用者が少なくなるのが悩みです。

喰丸小に観光・移住の相談窓口があることで、村全体の第一印象が良くなるようです。



教室には、小学校時代の姿が再現されています。



参加者の感想

西会津や昭和村のようにするのは大変なことだと感じた。

建物を整備するだけでなく、将来的にそこで誰が何をするのかを考える必要があるのではないかと。

ただみ・モノとくらしのミュージアム

所在地 只見町大字大倉字窪田30
 開館時間 9:30~17:00(入館は16:30まで)
 休館日 月曜日(国民の祝日に当たるとは異なる場合はその翌平日)
 年末年始 12月29日~1月3日
 入館料 無料
 電話 0241-86-2175



国指定文化財を保管する「見る収蔵庫」

国指定重要有形民俗文化財「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」を収蔵・展示する博物館です。昭和40年代から収集されてきた民具は、町民が中心となって整理したという点でも高く評価されています。現在旧玉梨小学校に展示されている弥平民具は、この只見町の手法に学びながら、玉梨地区の住民が整理したものです。民具の絆で旧玉梨小学校と結ばれた博物館です。

原永円香さんのお話

ただみ・モノとくらしのミュージアム学芸員

テーマに沿った企画展を行う展示室だけでなく、国指定文化財を保管する「見る収蔵庫」を公開しています。通常よりも通路を広く取って、見学を前提に設計された収蔵庫には、簡単な説明プレートも設置してあります。

国指定文化財に指定されていない民具を用いて、来場者が民具に触れたり、着用したりして体験的に学べるコーナーを設けています。



展示室では、民具のテーマ展示のほか、様々な企画展が開催されています。

参加者の感想

民具の点数・整理ともに素晴らしかった。

参考にしつつ、ものまねではない金山独自の取り組みを作りたい。

広く立派な施設なので、維持・管理の経費が多くかかりそう。

ふるさと館田子倉

所在地 只見町大字只見字田中1299番地
 開館時間 9:00~17:00(最終受付16:00まで)
 休館日 火曜日(祝祭日の場合は翌平日)、年末年始
 入館料 高校生以上310円、小・中学生210円
 20名以上団体割引あり



ふるさと館田子倉は、田子倉ダム建設に伴い、ダム湖に沈んだ田子倉集落の記憶を後世に伝える資料館です。来訪時に説明して下さった職員の方も田子倉集落にルーツを持つ方でした。個人宅を改装した小規模な資料館ですが、地域に密着し、充実した展示と活動を行う資料館です。

担当者のお話

資料館2階にある畳敷きの部屋は、地域住民の活動にも利用されています。この部屋を拠点に、住民が仕事着の「ゆっこぎ」を研究し、お土産品として「ゆっこぎ」の型紙を開発したこともあります。

2022年の只見線全線再開通以降、来館者が増加傾向にあります。



こじんまりとした空間のなかに、田子倉集落の暮らしを伝える資料が所狭しと並んでいます。

参加者の感想

職員のルーツが田子倉にあるという点にリアリティがあった。

小規模でも充実した展示をすることができるのだと感じた。

3

未来を考える

保存が決定した旧玉梨小学校は、今後どのように整備・活用してゆくべきでしょうか。

金山町地域振興検討会を中心としたこれまでの議論では、旧玉梨小学校は「町の歴史や文化を次世代に継承するための交流施設として活用」（令和2年度金山町地域振興検討会）するのが望ましいと結論付けられました。これに従い、町は令和4年度までに建物改修に向けての実施設計を行い、令和5年度に改修工事を行うための予算案を議会に提出しました。しかし、令和5年町議会3月定例会において、施設の具体的な活用方法とそれにふさわしい改修案の検討がさらに必要であるという指摘を受け、工事着工は見送られました。

このような経緯のもとに、令和5年度の金山町教育委員会では、ひらかれた議論を行うために「検討会」を開催し、住民自身の手で旧玉梨小学校の未来を改めて見直した上で整備・活用の方針作りを行うことにしました。

検討会では、第2章で紹介した近隣町村施設へのツアーを手がかりとしながら、旧玉梨小学校に対する参加者の想いや、あるべき整備・活用のあり方を時間をかけて話し合いました。この章では、3回に渡る検討会の概要を紹介するとともに、参加者の意見から導かれた、整備・活用方針を考える際のポイントを整理します。



検討会開催日程

第1回	2023年10月9日(月・祝)	旧玉梨小学校に対する参加者の想いを聞く
第2回	2023年12月2日(土)	教育委員会による整備・活用方針案を検討する
第3回	2023年12月16日(土)	改修・活用案のさらなる具体化を目指す

旧玉梨小学校に対する 参加者の想いを聞く

開催日時 2023年10月9日(月・祝)14:10~15:30

開催場所 旧玉梨小学校食堂

参加人数 22名

参加者が語る 旧玉梨小学校の思い出と建物の魅力

- 講堂（体育館）での遊びが、楽しい思い出としてのこっている。
- 体育館の構造が好き。
- 跳び箱が良い子どもたちの遊び道具になっていた。
- ストープの上で昼食のお弁当を温めて食べたことが、小学校時代のよい思い出になっている。
- 校舎の赤い屋根は後年に塗り直したものだが、この建物を印象的にしている。
- 木製建具の立てる「ガラガラ」という音が心地よい。
- 体育館に残された卒業制作の絵が懐かしいので、残してほしい。

議論のまとめ

- 多くの参加者が、モダンであたたかみのある木造校舎や体育館の魅力と、そこに結びついた記憶の価値を共有している。
- 改修工事では、こうした現状の木造校舎の魅力を守り・活かすことが必要となる。

検討会第1回目は、議題をあえて限定せずに、参加者の旧玉梨小学校に対する想いを広く聞き取ることを目指しました。

この回の議論から見てきたのは、旧玉梨小学校校舎の建物としての魅力や、その保存の意義については参加者の間に概ね同意が取れている一方で、建物の改修内容や活用方法の考え方は様々であり、現状では一本化することができないということでした。

参加者の望む活用方法

- 民具・土器などの文化財展示施設としてほしい。
- 民具を展示する際には、その背景・使い方をはじめ、生活全体の中での民具の意義がわかるように展示してほしい。
- 自然教育村会館の活動を再開し、引き続き宿泊施設として活用してほしい。
- 只見線に関する展示を行ってほしい。

議論のまとめ

- 具体的な活用方法については、参加者の間で多様な意見があり、現時点では意見をまとめるににくい。
- 意見の相違を越えた議論を行うためには、まず長期的・大局的に視点に立った方針を定める必要がある。
- 第2回検討会で、教育委員会から旧玉梨小学校の整備・活用方針を示すこととした。

教育委員会による 整備・活用方針案を検討する

開催日時 2023年12月2日(土)13:30~15:20
開催場所 旧玉梨小学校食堂
参加人数 13名

第2回検討会では、第1回目の検討会の課題を受けて、教育委員会から旧玉梨小学校の整備・活用方針を示しました。施設全体をいかなる目的のもとに、どのように整備・活用するのか示した大局的な方針を明らかにすることは、施設での具体的な活動内容や、改修案の検討といった、個別の事例を議論する際の判断基準をつくることに繋がります。

教育委員会からは、昨年度までの議論と町の課題を踏まえ、旧玉梨小学校については「金山の過去を知り、金山の未来を創る交流施設」を目指すという方針を改めて示しました。この方針に対しては、概ね参加者の賛同が得られました。今後の課題として、賛同された方針をさらに具体化すべきであることを確認し、第2回検討会は終了しました。

金山町教育委員会の方針

旧玉梨小学校は
「金山の過去を知り、金山の未来を創る交流施設」
として整備・活用する。

※当日検討会で参加者に配布したものをもとに、再編集したものを掲載しています。

なぜ改修が必要なの？

建物の老朽化により、既存の自然教育村会館の用途については、ニーズが低下している

金山町地域振興検討会（令和2年度）の要望

「町の歴史や文化を次世代に継承するための
交流施設として活用することを望む」



金山町地域振興検討会の提言に沿って、
新たな活用方法を実現するため整備・活用を行う。

「町の歴史や文化を
次世代に継承するための施設」
はなぜ必要なの？

町の歴史・文化・生活を知ること、町への愛着を育む。

町に関心を持つ人を増やす。

- ・現在の金山町には、町の歴史・文化を扱う資料館等の施設が存在しない。
- ・文化財を保存するだけでなく、その価値を伝える物語を語り継ぐ人と場所が必要である。
- ・町の過去を知る高齢者世代、町の未来を担うこどもから、町に多様な形で関わる関係人口まで、町の文化・歴史に関心を持つ人を対象とする。

なぜ旧玉梨小学校という 場を選ぶの？

建物自体が歴史・文化を伝える貴重な文化財である。

- 町で唯一残る木造校舎として、過去の金山町の記憶を伝える空間である。
- 町のくらしを伝える「弥平民具」が収集された地であり、現在も展示室が設置されている。

どのような施設を 目指すの？

金山の過去を知り、金山の未来を創る交流施設

過去を知る（例）

- 民具や土器など町の歴史・文化を知ることのできる資料の展示
- 民具の活用体験
- マタタビ細工など伝統技術の探求場所

未来を創る（例）

- 町の文化・歴史に関わる活動拠点
- 町の文化・歴史に関わる活動の発表
- 各種イベントや講座の開催

議論のまとめ

- 教育委員会の方針については、概ね参加者からの賛同が得られた。
 - 会場では、今後の方針のさらなる具体化に向けて、以下のような意見が出された。
-
- 旧玉梨小学校の改修・活用は、統合準備が開始された横田小校舎の利用を含めた金山町全体のまちづくりや文化政策と併せて検討する必要がある。特に、文化財の「保存」については旧玉梨小学校では十分に対応できないため、検討が必要。
 - 「過去を知る」「未来を創る」「交流する」の3点について、それぞれ対象となる人は誰なのか、目的は何なのか、どのような方法で行うのか、より具体的な内容を検討する必要がある。
 - まずは住民が自主的に集まる施設にすることが重要で、観光客等の町外の人々がそこに参加するという形が理想的ではないか。
 - 旧玉梨小学校近隣で、古民家を改修したゲストハウス計画が玉梨地区住民を中心に進んでいる。このような周辺住民の取り組みと連動した計画を検討してほしい。
 - 西会津・只見・昭和などの先例よりもよい施設にするという意識が必要。

改修・活用案の さらなる具体化を目指す

開催日時 2023年12月16日(土)14:00~16:00
開催場所 旧玉梨小学校食堂
参加人数 16名

第3回検討会では、これまでの2回の検討会を振り返るとともに、第2回検討会で教育委員会が提示した方針をさらに具体化すべく検討を行いました。前回検討会からの準備期間も短く、検討会の中では結論を出すことは叶いませんでしたが、今後の課題について、前回よりさらに多くの意見を伺うことができました。

議論のまとめ

- 改修後の場を活かす「人」をどのように確保・育成するかが議論の中心となった。
- 旧玉梨小学校に現在収蔵されている弥平民具については、収集の中心となった玉梨で保存・活用する意義を評価する声がある一方で、保存に適さない施設での管理に疑問を呈する声があり、意見が割れていた。民具については、金山町の文化財保存・活用計画全体と調整しながら考える必要がある。

参加者の声より

- 金山町は人口減少と高齢化が大きな課題となっている。未来を創るために、子育て中の親とこども世代が集まる施設にできないと意味が無いのではないかと。例えば家ではできないような作業をする共同作業場を設けて、高齢者がそこで作業し、こどもたちがそれを見学しにくる、なども面白いのではないかと。
- 地元地区の関心がまだ低いことが課題ではないかと。高齢者が主体的に関われる仕掛けが必要だと思ふ。
- 文化財については単に保管するのではなく、住民のなかにある文化財を活用してみたいという声に応えてほしい。
- 体験・交流重視型の民具展示など、近隣町村にはない金山独自の施設を目指して欲しい。
- 現状では不在の学芸員を頼りにするだけでなく、現在町に暮らす人材の活用を考えてほしい。
- 文化財活用にあたっては、保存と活用を両立することが未来の世代に対する責任でもある。保存と活用の両立のためにも、専門的知識を持った学芸員をきちんと確保してほしい。
- 目的を明確化して戦略的に学芸員を募集する必要があるのではないかと。
- 整備・活用のスケジュールを早く示してほしい。高齢化が進むなかで、4~5年かけて計画実現を待つというのはつらい。

未来をつくる鍵

検討会から導かれた課題と要望

この章の最後に、3回の検討会で交わされた議論をもとに、今後の課題と参加者の要望をまとめます。この課題・要望をもとに、次章では旧玉梨小学校の整備・活用方針案を示します。

1

施設活用を担う人材の確保・育成

旧玉梨小学校の整備・活用事業を持続的で地域に根付いたものとするには、施設を改修・整備するだけでなく、施設を活かす「人」の確保と育成が不可欠です。また、人材の確保・育成にあたっては、以下にあげるように、多様な関係者にアプローチすることが求められます。

- 町の現在を担う現役世代の活躍支援・育成事業
- 町の未来を担う子ども・親世代に対する文化継承事業
- 過去と現在・未来をつなぐ高齢者の活躍支援
- 文化財の価値を守り・高める学芸員等の専門職員の確保・配置

2

地元玉梨・八町地区との協力

旧玉梨小学校が必要とされる施設であり続けるためには、まずは地元玉梨・八町地区の理解と協力が重要です。小学校時代から旧玉梨小学校が担ってきた、地域のコミュニティセンターとしての機能を維持・向上させ、地域に根ざした施設を目指すことが必要です。

3

文化遺産の保存と価値向上

旧玉梨小学校の整備・活用は、旧玉梨小学校校舎と弥平民具をはじめとする町の文化遺産の管理計画と大きく関わります。整備・活用によって、これらの文化遺産の価値が損なわれることのないよう、学術的知見に基づいた対策を講じるとともに、価値の向上に努める必要があります。

4

地域特性の尊重

旧玉梨小学校の整備・活用に際しては、金山町および玉梨・八町地区を中心とする周辺地域の自然・文化・くらしを尊重して、特色ある施設を目指すことが求められます。

5

文化政策全体との連携・調整

旧玉梨小学校の効果的・効率的な整備・活用には、町文化政策全体との連携・調整が必要です。町全体の文化遺産管理方針や、社会教育・観光事業などの関係事業のなかで、旧玉梨小学校がどのような役割と目的で整備・活用されるべきかを検討しなければなりません。また、急速に人口減少・少子高齢化が進行しつつある本町では、計画の具体的スケジュールを早期に示すことも重要です。

4

〈提言〉 旧玉梨小学校 および周辺地域の 整備・活用方針案

本章では、近隣町村施設の見学ツアーと検討会での議論をもとに、金山町教育委員会がまとめた、旧玉梨小学校および周辺地域の整備・活用方針案を示します。この方針案は、旧玉梨小学校の未来の方向性を見定めるための、地図のようなものです。

教育委員会は、本報告書を通してこの方針案を広く町民と共有し、町全体でのさらなる議論や、実験的な取り組みの実践を通じて、今後もこの方針をよりよいものに改定し、具体的な事業計画へと練り上げることを目指しています。そして、十分な検討のもとに、旧玉梨小学校の改修工事を実施し、継続的な活用体制を実現します。

旧玉梨小学校および周辺地域の未来は、まだ荒い下書きの段階にあります。これからも、多くの人々が、この取り組みに対して、多様な声を寄せ、力を貸してくださることをお待ちしております。

「金山の過去を知り、金山の未来を創る交流施設」

1

過去を知る

町の自然・歴史・文化を対象とした
調査研究・教育普及活動の拠点

2

未来を創る

町の自然・歴史・文化に根ざした
キーパーソン育成・創造的活動支援の拠点

3

交流する

町の自然・歴史・文化を軸とした
交流活動の拠点

金山町は現在、奥会津7町村による連携事業「奥会津ミュージアム」の一員として、奥会津地域の「暮らしと生業の場を、あるがままに生きられた博物館に見立てるエコ・ミュージアム」(赤坂憲雄「奥会津ミュージアム構想」より)活動の実践に参加しています。この活動を踏まえて、旧玉梨小学校を、その周辺地域とともに一体的に活かした、金山町内エコ・ミュージアム活動の拠点として整備・活用します。この整備・活用事業を通して、過去に学びながら町の未来を創造し、町に生きる喜びを分かち合う、住民主体の「まちづくり」実現を目指します。

1

過去を知る

金山町の自然・歴史・文化を対象とした
調査研究・教育普及活動の拠点を目指します。

⇒ 施設活用を担う人材の確保・育成
⇒ 文化遺産の保存と価値向上
⇒ 地域特性の尊重

町の文化資源の地域的・学術的価値を明らかにし、未来に向けて適切に保存・活用することを目指して調査研究活動に取り組み、その成果を広く公開します。学芸員等の専門職員を配置するとともに、地域住民および利用者、大学・博物館等の外部研究機関や専門家と連携・協力し、活動の充実に努めます。多様な人々が旧玉梨小学校校舎とその周辺地域を活かしながら主体的かつ体験的に地域を学び、その成果を世界の人々と分かち合えるよう支援します。

2

未来を創る

金山町の自然・歴史・文化に根ざした
キーパーソン育成・創造的活動支援の拠点を目指します。

⇒ 施設活用を担う
人材の確保・育成

金山町の自然・歴史・文化への理解を基盤にまちづくりに取り組む「キーパーソン」を育てるために、研鑽・交流の機会を提供します。金山町の自然・歴史・文化に根ざした創造的活動に対して、活動・発表の場を提供するとともに、活動支援を行います。町文化資源の保存・価値向上と創造的活動を両立するために、学術的知見に基づいた助言・協力を行います。

3

交流する

金山町の自然・歴史・文化を軸とした
交流活動の拠点を目指します。

⇒ 施設活用を担う人材の確保・育成
⇒ 地元玉梨・八町地区との協力

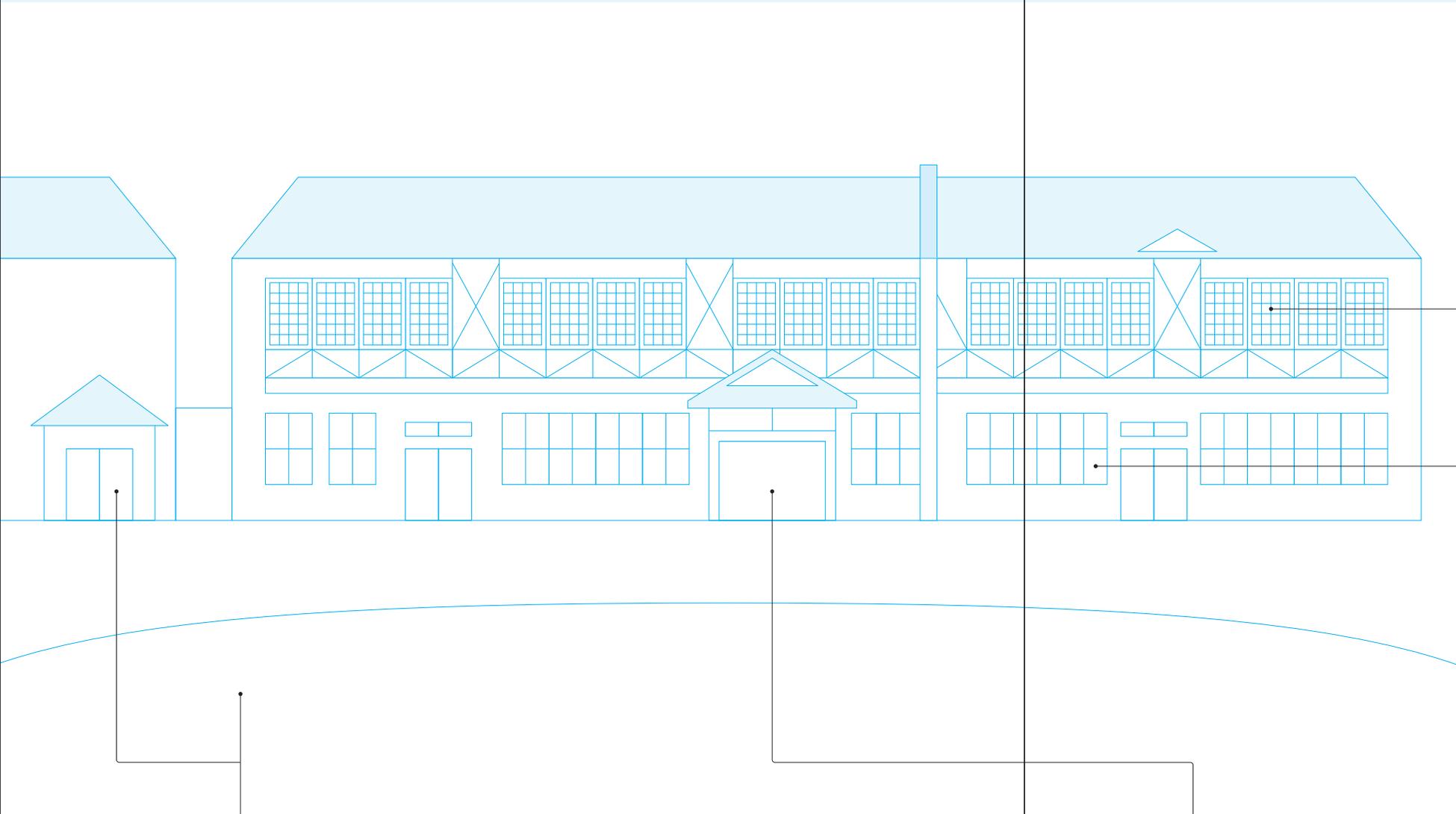
金山町の自然・歴史・文化に関心を持つ人々が、世代や出身地・居住地を始めとした地域との関わりの違いを超えて繋がり、地域に生きる喜びを共有できる環境を整備し、交流機会を提供するとともに、町の多様な関係人口が主体となって取り組む交流事業を支援します。旧玉梨小学校区を中心とした周辺地域住民のコミュニティセンターとして、機能の維持・向上に努めます。

拠点運営の方針

⇒ 文化政策全体との連携・調整

まちづくりの中心は、地域の暮らしを担う住民自身です。この考えに基づき、旧玉梨小学校を中心とした拠点施設は、地域住民と行政の協働を基本に据えた運営を目指します。奥会津7町村による広域エコ・ミュージアム活動である「奥会津ミュージアム」との連携・協力を密にし、広い視点に立って金山町の自然・文化・歴史を捉え、地域と世代を越えて、その価値を守り・活かし・伝えることを目指します。

旧玉梨小学校整備・活用イメージ



体育館・校庭 | 関心・活動をひろげる

整備方針

- 旧玉梨小学校と周辺地域を緩やかにつなぐ中間地帯としての整備
- 周辺地域へと人々を誘い出す仕掛けづくり

活用・活動の例

- 野外空間・大空間を活かした教育活動・市民活動屋外交流イベント会場利用
- 地域住民のスポーツ利用
- 周辺案内図等の設置

2階 | 町の歴史・文化にふれる

整備方針

- 町の歴史・文化の探求・体験を促す空間づくり

活用・活動の例

- 町文化財の展示
- 文化財整理・調査・研究
- 文化財関連教育普及事業の実施

1階交流スペース | 対話をうながす

整備方針

- 対話を生み出すひかれた空間づくり

活用・活動の例

- 利用・支援相談
- 利用者の活動紹介コーナー
- 窓口の設置施設案内展示
- 待合スペース

1階創造スペース | 活動をはぐくむ

整備方針

- 多様な創造意欲に応える空間づくり

活用・活動の例

- ものづくり講座・ワークショップ等の開催
- 活動・発表の場の提供
- 参考図書・必要機材等の提供

エントランス | 活動にいざなう

整備方針

- 旧玉梨小学校の歴史的背景・施設の目的を伝える空間づくり
- 活動参加を促す導線づくり

活用・活動の例

- 利用・支援相談窓口の設置
- 利用者の活動紹介コーナー
- 施設案内展示
- 待合スペース

金山町エコ・ミュージアム活動イメージ



玉梨・八町地区

金山町エコ・ミュージアム活動 モデル地区

整備方針

- 屋根のない博物館としての実践

活用・活動の例

- 環境を活かした教育・創造・交流活動
- 玉梨・八町地区内文化・歴史散策路の整備
- 野尻川沿岸の自然・歴史・文化スポットの周遊ルート整備



金山町全域

エコ・ミュージアム 活動を広げる・つなぐ

整備方針

- 町内各活動・各施設の連携・協力

活用・活動の例

- 各地区文化・創造・交流活動の連携
- 町内の自然・歴史・文化学習・体験スポットの周遊ルート整備

今後の取り組み

令和6年度以降は、旧玉梨小学校とその周辺施設のエコ・ミュージアム拠点化を進めるために、4つの事業に取り組みます。

1 実験的活用事業

旧玉梨小学校とその周辺施設において、金山町エコ・ミュージアム拠点施設を目指す3つの機能に即した実験的活用事業に取り組みます。

過去を知る

— 文化財ワークショップの実施

専門家から文化財整理・保存・活用の基本を学びます。あわせて、参加者が文化財保存・活用のキーパーソンとして活躍できる機会づくりに取り組みます。

— 民具展示室整備ワークショップの実施

町出身デザイナーを中心に展示方法を再考し、民具の小展示開催に取り組みます。

— 玉梨・八町地区マップ作成ワークショップ

地区の自然・歴史・文化を探るマップ制作に取り組み、将来的な野外散策路等の整備に備えます。

未来を創る

— 住民活動の支援

旧玉梨小学校とその周辺環境、旧玉梨小学校に保存されている弥平民具等の文化資源を活かした住民活動を支援します。

— まちづくり学習会

対話を通してまちづくりを学ぶ、研修機会を提供します。

— 親子向け体験学習機会の提供

地元高齢者を講師として、町内のこども・親世代に向けて、旧玉梨小学校とその周辺環境や文化資源を活かした体験学習機会を提供します。

— 創造・交流スペース整備ワークショップの実施

町出身デザイナーを中心に、創造活動・交流活動を支援・充実させる空間づくりに取り組みます。

交流する

— 旧玉梨小学校を拠点とした交流イベントへの支援

旧玉梨小学校とその周辺環境、旧玉梨小学校に保存されている弥平民具等の文化資源を活かした住民による交流事業を支援します。

— 旧玉梨小学校区におけるコミュニティセンター機能の維持・強化

旧玉梨小学校区住民の既存活動を支援するとともに、旧玉梨小学校区の住民が気軽に参加できる交流機会の提供に努めます。

2 金山町エコ・ミュージアム活動計画の策定・実施

金山町エコ・ミュージアム活動計画を策定し、計画のなかで、継続的かつ効果的な旧玉梨小学校およびその周辺地域の活用・運営のありかたを示します。住民による計画の評価を経て、活動計画を見直し、計画の実施に取り組みます。

3 施設改修計画の策定・実施

金山町エコ・ミュージアム活動計画に基づき、建築家等の専門家の指導のもと、施設改修計画を策定します。住民による計画の評価を経て、改修事業を見直し、計画の実施に取り組みます。

4 学芸員等専門職員の配置

エコ・ミュージアム計画の策定・活動の実施に必要な専門知識・能力を備えた、学芸員等専門職員の配置を目指します。

自然教育村会館（旧玉梨小学校）の未来を描く

只見線・バスツアー／検討会

アンケート結果

回答数

西会津町編：13名（検討会参加22名）
 昭和村編：9名（検討会参加13名）
 只見町編：11名（検討会参加16名）

企画に参加した理由（複数回答可）

回答	西会津編	昭和村編	只見町編	合計
自然教育村会館に関心があった	10	5	3	18
見学先に関心があった	5	1	4	10
まちづくり・文化行政に関心があった	6	3	6	15
知人に誘われた	7	7	4	18
その他	1	0	0	1
未回答	1	1	1	3

その他内容：「見学先に行ったことがなかったので、軽く考えて参加した。」

企画全体の内容について

回答	西会津編	昭和村編	只見町編	合計
満足	5	3	6	14
やや満足	3	2	0	5
ふつう	4	3	4	11
やや不満	0	0	0	0
不満	0	0	0	0
未回答	1	1	1	3

見学ツアーについての意見・感想（自由回答）

西会津編（西会津国際芸術村）

- 矢部氏がやっておられるから継続できているなど思った。
- 芸術村が成功しているのは、そこを運営している人である。人材が必要。
- 初めて行きましたが、新しいものと古いものとうまく融合している。管理者、デザイナー次第だと思った。
ただ来て見学してもらっただけでなく、来た人に、いかにその日今後またここに滞在してもらえるかは、やはり人次第。
- すべてが今後の参考になった。
- よく理解できた。
- 時間がたりなかった。
- 大変すばらしく見学させていただきました。昔のままで、そのきれいに整理されている。
- 矢部さんはすごい。
- 場所が少し遠い。
- 何度か西会津国際芸術村へお邪魔していましたが、矢部さんの取り組みの経緯を知ることができて、大変有意義でした。
西会津出身の矢部さんがご自身で学び仕事にしてきたランドスケープ・アーキテクチャー（芸術・環境・建築・工学・社会学）などの集大成が西会津国際芸術村になっていて、人々を引き寄せているのだなあと感じました。
- 清掃が行き届いている、清潔。食堂のテーブルがよい。
- 木造でよかった。展示物が豊富でよかった。豊富な活動。特にリーダーが立派。
- 建物へ初めて入ったのですが、最初に感じたことはすみからすみまでの清掃が行き届いていて、すばらしいことだと思います。
- 廊下の広さに驚いた。
- 西会津国際芸術村では以前、地域おこし協力隊の受け入れ窓口をしていたそうだが、金山でも自然教育村会館を拠点にしてはどうかと思った。
- レトロ感と新しく洗練された感じが交じっている雰囲気が良い。特にカフェスペースがすてきです。

昭和村編（交流・観光拠点施設喰丸小、からむし工芸博物館）

- からむし工芸博物館は自然教育村会館の弥平民具を考える上でも参考になった。
喰丸小は、自然教育村会館の企画展示イベントの参考、古い建物の残し方の参考になった。
- 旧玉梨小学校と同じような廃校の利活用、民具の保存に対する課題も含めてモデルケース、見本として見て学ぶことができた。
- 伝統工芸の継承と保存について行政主導と地元住民の理解・協力があつたからできたのかとも思う。
- 教育村会館がなくてもよいとますます思った。
西会津や昭和村のようにするのは大変なことで今はよいがその後誰がどうするのですか。

只見町編（ただみ・モノとくらしのミュージアム、ふるさと館田子倉）

- それぞれの施設に中心となって、ひっばっていく人がいる。
- 施設が立派だった。民具等も町で10年間かけて収集した様で弥平民具の数量の何倍もあって、同じ様にやるのは無理だと思った。
- 良く整理されていた。物品が多く有った。物事の深さが感じられた。
- 展示されている民具は、現在も利用されているものもある。
昔の人は物作りにはいろんな事を考えながら作っていたとわかり、本当にすばらしい。友人と一緒に来てみたい。
- 展示物等はすばらしかったです。金山町でしか出来ない物にしたい。ものまねではなく！
- モノとくらしのミュージアムでは、民具の多さと質の良さに感心した。しかし、入手・集計・維持管理の経費が不安になる。
田子倉館では、国の施策によって住民が泣かされてきた歴史を残さなければならぬと感じた。
- 町の歴史文化を体感できる場所があるのはとてもいいです。
モノとくらしのミュージアムは無料なのもすばらしいと思いました。
- 昭和村と同じく地域おこし協力隊の方が説明して下さいって感激した。

検討会についての意見・感想（自由回答）

西会津編

- 会館の目的を明確に出来るかが重要ではないか。（同主旨回答 2 名）
- ファシリテーションがすばらしかったです。老若男女の意見、想いがきけてよかったです。これから具体化していく土台の土台くらいはできたのでは？
- 地元玉梨の方や、その他地域に関わる老若男女がまんべんなく集まって、良かった。意見がどこまでリアルに繋がっていくか、つまるところ、矢部さんがされているように、地域に人が増えることだと思います。
- 検討のテーマをしぼった方が良かったのでは？
- 民具等の収蔵先として建物は残すのがよい。
- 難しい話で分からなかった。
- 西会津の成功事例で学んだ後、旧玉梨小学校の中で話し合うということは、とても良い事だと思いました。もっと金山町の方々から意見を出してもらって、リノベーションして良かったと後世に賞賛される建物になってほしいです。

昭和村編

- いい議論ができた。それだけで終わらず、この内容をぜひ「計画」にして下さい。
- すばらしい資料を元に、参加者も頭の中を整理できたと思います。とはいえ、やはりそれぞれの好みのコンテンツに焦点が向きがちですね。司会のおふたりがそこをうまくまとめて下さったと思います
- はじめに町の方針を聞くことができ、議論がまとまってよかったと思います。いい話し合いだと思いました。来て良かったです。（同主旨回答 2 名）
- 次回の只見町への視察はあまり得る所が無い様に思う。
- プロジェクターで教育委員会さんが考えを示して下さい、わかりやすかった。

只見町編

- 弥平民具と建物の活用は別に考えて、活用法をまず決めて民具は活用の一部とするのがよいのではないか。
- 只見が立派すぎる。学芸員の人も立派でした。
- 多くの意見、特にこれまで発言のなかった人たちの声をきけて良かったです。（同主旨回答 2 名）
- 来年の文財の会議の中で、町の方針が示されるので、今回までの話し合いを参考に討論していきたい。
- プラス思考の考え方を集約して成果を見いだせれば！！
- 参加者の熱量を感じられて良かった。

旧玉梨小学校の改修・活用についての意見（自由回答）

西会津編

- 参加型の交流を希望する。ただ展示を見るだけでなく、自分の作品を展示、老若男女の作品のテーマを決めて、体験できる場所にしたい。
- 施設の目的を明確にしてから改修して下さい。（同主旨回答 3 名）
- すべては人、管理する人の資質が重要。改修については元の姿を残す事が重要。
- 弥平民具だけでなく、町内で発掘された土器なども展示したらいいと思う。
- 弥平民具は貴重な資料だと思いますが、道具は実際に使えてこそ価値があると思いますので、自然教育村会館の名称の通り、周辺に畑や田んぼで農作業を体験できて、弥平民具を使えるようにしてみてもと思います。そして、収穫して調理して食べる設備もあればと思います。金山町の歴史を学べて、体験できて、体育館やグラウンドで体を動かし健康になれる。町内や町外、インバウンドの方々が集い、金山町のファンを増やせる施設になってほしいです。薪ストーブなどがあるととてもよい。SDGs な場所にしてほしい。
- この建物の魅力はモダンな木造であるところだと思う。宿泊施設としての機能を希望します。
- 関係人口・インバウンド向けの体験施設(マタタビ、ヒロロ細工、絵ローソク等) にしてほしい。
- 地域おこし協力隊の窓口にするとよいのではないか。
- 昭和の雰囲気が残っていて良い。この小学校で過ごした人たちにとっては思い出深い場所だと思います。

昭和村編

- 旧玉梨小学校の改修・活用については、横田小の閉校と合わせて検討して下さい。
- 横小の利用は、金山町の歴史（山ノ内家等）が全てわかる展示を。土器類は金山全域が見える展示を望みます。玉小は民具等の展示、体験できる施設にして欲しい。（同主旨 2 名）
- 必ずしも観光客向けではなく、町民を中心に据えて考えてもらいたいと個人的には思います。
- 町内の子どもや歴史文化に関心ある人に向けて、過去の息づかいが感じられるような施設になるといいと思う。学芸員はいてほしい。
- 校舎の新しい部分を解体し、体育館と古い校舎（改修）を残し、活用できる方を募集する。やる気のある人がいないと長続きしない。
- 教育村会館はなくてもよい。地元の人達は関心がないということで、あってもなくてもよいということだと思います。

只見町編

- 施設活用を中心となる人がいない。人が全て。
- 校舎の一部を解体し駐車場にする。古い校舎と体育館を残し活用する。
- 改修はしなくてよい。誰がこの後引き継ぐのですか。（ファシリテーターの）榎本さんと菅家さんは何のために居るのですか。
- 参加者の一人が言った、親、子どもの関わりはとても大切だと思います。また高齢の方たちも、主体的に関わるしかけが必要だと思います。地区住民の関心のうすさは、課題のひとつです。
- 改修に際しては、外壁は木目（下見板）にし、サッシ窓にしてほしい。
- 有るものは有効に活用してほしい。
- 目的を持った会館にしてほしい。（予算が一番）
- 気軽に訪れることができ、楽しく交流できる場所になるといいと思っています。

※アンケートの掲載にあたって、文意を損なわないよう一部回答の文言を変更しました。

※参加者の個人名に言及した回答については、個人名を示さずに掲載しました。

旧玉梨小学校の未来のために

編集・執筆 金山町教育委員会
榎本千賀子

写真撮影 榎本千賀子
p4-5, 11 [下段写真 1], 14-20, 21 [上段]
金山町教育委員会
p21 [下段]

写真提供 〈かねやま「村の肖像」プロジェクト〉
p7,9 [写真 4], 11 [上段写真 1-4]
にいがた地域映像アーカイブ・データベース(角田勝之助写真コレクション)
p8, 9 [写真 1-3], 10, 11 [上段写真 5、下段写真 2]
菅家悠斗
p23

デザイン 菅家悠斗

印刷・製本 エープラン株式会社

発行 金山町教育委員会
〒968-0011
福島県大沼郡金山町大字川口字谷地393
TEL (0241) 54-5333
FAX (0241) 54-5377

The background features three large, overlapping, irregular shapes: a red shape at the top, a green shape on the left, and a brown shape at the bottom. The central area is white.

令和5年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）補助金